

日産厚生会玉川病院を受診された患者さまへ

当院では下記の臨床研究を実施しています。本研究の対象者に該当する可能性のある方で診療情報等を研究目的に利用または提供されることを希望されない場合は、下記の問い合わせ先にご連絡下さい。

研究課題名（研究番号） 原発性自然気胸に対する単孔式胸腔鏡下手術によるデュアルカバリング法の手術成績（No. ）

当院の実施責任者（所属） 坪島顕司（気胸研究センター）

他の研究機関および なし

各施設の研究責任者（所属）

本研究の目的

胸部外傷など明らかな原因がないにも関わらず肺が自然にしぼんでしまう病気が自然気胸です。その中でも若く背の高い男性に多く発症するのが原発性自然気胸で、体質的に肺の表面にブラと呼ばれる嚢胞が発生し破綻することで発症します。特に10代の患者さんは手術で嚢胞の切除等を行っても、新たにブラが発生し再発率が高いことが知られています。当院では以前から再発率を減少させる方法に取り組んでおり、ブラを切除等したうえで肺を補強する方法を行っています。最近ではネオベールシート（ポリグリコール酸）とボルヒール（フィブリン糊）をブラが発生しやすい部分に貼付する手法に加えて、サージセルシート（酸化再生セルロース）で更に広範な補強（デュアルカバリング法）を行い、若い患者さんの再発率を大きく低下させることを2019年に論文で報告しました。この方法は複数の小さな傷で行う胸腔鏡下手術で行っていましたが、最近は1つの小さな傷で行う胸腔鏡下手術（単孔式胸腔鏡下手術）でもデュアルカバリング法を行っています。一般的に単孔式胸腔鏡下手術は術後の痛みがより少なく、傷も目立ちにくい方法として知られていますが、デュアルカバリング法と組み合わせた場合の治療成績の報告はほとんどありません。

今回、2018年1月から2024年3月までに当院で原発性自然気胸に対しデュアルカバリング法を行った方を対象として、単孔式胸腔鏡下手術の手術成績を調べます。比較対象として同じ時期に複数の小さな傷で手術を受けた方の調査も行い、患者さんの年齢、喫煙歴、手術時間、出血量、術後再発の有無、有害事象等を調査いたします。

本研究を学会、論文発表することで、本治療方法が普及し原発性自然気胸の患者さんにより再発率が低く負担の小さな治療を提供できることが期待されます。

調査期間 倫理委員会承認日から2026年3月31日まで

研究の方法
(使用する試料等)

●対象となる患者さま

当院で2018年1月から2024年3月までに原発性自然気胸に対し当院で単孔式胸腔鏡下手術を受けた方。約380名（単孔式手術約80名、複数の傷の手術約300名）の方が対象になる見込みです。

●利用する情報

試料/情報の他の研究機関への 提供および提供方法	カルテに記載のある診療記録、検査データを利用します。 ●利用又は提供を開始する予定日 倫理委員会承認日より なし
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所等の患者様を直接特定できる個人情報は削除し解析を行います。また、研究成果は学会や論文等で発表を予定していますが、その際も患者様を特定できる個人情報は利用しません。本研究のために収集したデータは共同研究以外では使用せず、研究終了後5年間保管し、その後はすみやかに消去します。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません
お問い合わせ先	電話：03-3700-1151 (代表) 担当者：坪島顕司
備考	